

通信



第 37 号

2021 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための
コンサート・シリーズ
スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート」Fun Fun Flute! 楽しい! おもしろい! フルートの世界」

(子どものためのコンサート・シリーズ第五十六回)を、十月十七日(土)に西宮市甲東ホールで開催しました(十四時開演、六十分公演、来場者数・子ども三十二名、大人五十四名、合計八十六名)。

出演はフルート奏者のザビエ

ル・ラック先生(本学音楽学部准教授)とラック三智子さん、ピアノの竹ヶ鼻智絵さん(本学大学院一年生)、そして音楽学部フルート専攻生七名(四年生の内菜々美、松本知紗、河道萌々子、二年生の内藤友捺、中野由菜、一年生の芦沢梨里沙、堀之内明希)の計十名です。

キラキラと輝くフルートは、見た目も響きも魅力的です。昔は木で作られていて、それはそれで素朴な温かい響きがします。そんなフルートの色々を演奏とお話で辿るコンサートとして企画されました。

まず、明るく楽しいジャッ



紗、河道萌々子、堀之内明希)で演奏して開幕です。

司会のラック三智子さんが登場して、新型コロナウイルスの感染拡大で開催が危ぶまれたコンサートが無事に実現できた喜びをお客様に伝えました。

第二曲はチャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》より《葦

笛の踊り)です。ソフトバンクのコーシヤルでお馴染みの曲という説明に続いて、フルート四重奏(内藤友捺、芦沢梨里沙、中野由菜、松本知紗)で演奏。

ここでのよいやザビエル・ラック先生が登場して、フランソワ・ボルス作曲《カルメン幻想曲》を独奏します(ピアノ伴奏竹ヶ鼻智絵)。ビゼーのオペラ《カルメン》の有名なフレーズを次々とパラフレーズする曲で、



超絶技巧を生き生きと聴かせて聴衆を魅了しました。

第四曲

は、ピアノとラック

先生夫妻のフルート・デュオによるモーツァルト作曲《トルコ行進曲》です。ピアノの奏でる



リズムに乗ってご夫妻が舞台上で登場すると会場から歓声と手拍子が湧き起こりました。

フルート、(3) 金製フルートを紹介して、聴き比べ。第三組として、(1) フルード、(2) 四度下のアルト・フルード、(3) 一オクターブ下のベース・フルートの三種を紹介して、同じく《ミッキーマウス・マーチ》で聴き比べました。

次は「♪フルードって、どんな楽器？聴き比べてみよう！」

のコーナーです。まず第一組として、(1) 三、四歳から演奏可能なプラスチック製のプファイツズ・フルード、(3) ピッコロの三種を紹介して、《ミッキーマウス・マーチ》で三種を聴き比べました。

次に第二組として、

(1) 柔らかい音の木製フルード、

(2) 銀製



続いて、ク

ロード・ドビュッシー作

曲《小組曲》

です。ピアノ

連弾曲として

書かれた

曲ですが、それをピアノ伴奏と

フルード・デュオで演奏しまし

た。第一曲《小舟にて》は中野

由菜、第二曲《行列》は芦沢梨

里沙、第三曲《メヌエット》は

内藤友捺、第四曲《バレエ》は

堀之内明希、とセカンド・パー

トの学生が次々と入れ替わって、

ザビエル先生とのアンサンブル



を展開しました。

プログラム最後の曲はリチャード・ロジャース作曲《サウンド・オブ・ミュージック・メドレー》です。

《ドレミの歌》や《エーデルワイス》

といった有名

なナンバ

ーをフルー

ト四重奏(ラ

ック先生夫妻と大内菜々美、河

道萌々子)で華麗に聴かせまし

た。



最後に出演者が舞台上に勢ぞろいして、メンバー紹介と短いアンコールで締め括りました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で

予定していた講堂の使用が危ぶ

まれ、急遽、甲東ホールに変更

しての開催でしたが、来場のお

客様からは、「コロナで大変な中、

温かい楽しい曲やお話がとても

セラピーになった」「ザビエル先生が楽器と一体になっていてかつこよかった」「親子ともに心が豊かになる」といった声が会場アンケートから寄せられました。中には、「コロナで大変むずかしい中、企画をしてもらえてありがたい」「席が指定されていて前もって分かるのでとてもよかった」とスタッフの苦労を労ってくださるコメントもありました。無事に開催できたことに深く感謝します。

(アウトリーチ・センター長

津上智実・記)



クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」楽しい『あの日』がやってくる」（子どものためのコンサート・シリーズ第五十七回）を十二月十二日（土）に本学講堂で開催しました（第一部十一時開演、第二部十五時半開演、各六十分、来場者数・第一部九十三名／第二部八十七名、計百八十名）。



新型コロナウイルス感染症対策として、来場者数の制限（百名以内）や楽器体験の中止、小まめな換気、アルコール消毒、来場者の検温とマスク着用など、異例

の事態での開催となりました。出演は「音楽によるアウトリ

ーチ」十八期生を中心としたメンバーで、井本斐（ピアノ・クラリネット）、勝間田萌（ピアノ）、松田真緒（ヴァイオリン・ヴィオラ）、岩崎朱夏（コントラバス）、安川陽菜（声楽）の五名が力を合わせました。

このコンサートでは、普段テレビやお店で何気なく耳にしている音楽を意識して聴いてイメージを膨らませてほしいという思いから、緩急に富んだプログラム作りを心がけました。知らない曲でも楽しんで聴いてもらえるように、選曲のみならず時間配分や楽器編成にもこだわり、オリジナルの物語にのせて進めました。

幕開けには讃美歌（ひいらぎ飾ろう）をピアノ、ソプラノ、クラリネット、ヴァイオリン、コントラバスの出演者全員で演奏しました（編曲は井本斐）。オープニングに相応しく華やか



な編成で、会場の皆さんを物語の世界へと誘います。

二曲目はモーツ

アルト作曲《三つのドイツ舞曲》より第三番（そりすべり）です。

「ある町のクリスマス前夜の様子を覗く」という導入に添って、途中聞こえてくる鈴の音から雪景色を連想させます。モーツァルトは五歳の頃にはもう曲を作っていたと紹介すると、客席からは驚きの声が上がりました。

続いてシューマン作曲《献呈（リスト編曲）》のピアノ独奏から、四曲目のシューベルト作曲《アヴェ・マリア》の独唱へと続きます。華やかな曲からゆったりと穏やかな曲へと緩急をつけることで聴衆を飽きさせない

工夫をしました。

その後、物語は一気に加速し、「クリスマスはまだなのにサンタさんがやってきてしまった」という展開へ。小林亜星作曲《あわてんぼうのサンタクロース》で聴衆と手拍子をして「クリスマスはまだだよ」とサンタさんに伝えます。

ほっとしたのも束の間、今度はおもちゃ達がプレゼント箱から逃げ出してしまいます。このあわただしい様子をイメージして六曲目はヴィエニャフスキ作曲《スケルツォ・タランテラ》をヴァイオリンとピアノのダイナミック

な掛け合いでお届けしました。やはり大曲だけに会場の温度も一



気にながったように感じられました。

コンサートも後半に差し掛かり、七曲目はカプースチン作曲《シンフォニエッタ》第一楽章をピアノ連弾で演奏しました。クラシックとジャズが融合した独特の世界で盛り上がりは最高



潮に達します。

サンタさんが無事におもちゃ達に追いついたところ

で、会場の皆さんと一緒にリズム遊びのアクティビティを行いました。当初は歌いながら一緒に踊る予定でしたが、感染拡大防止のため急遽変更しました。「サンタさんよかったね」と「キラキラキラお星さま」という二つの言葉に乗せたリズムを



覚えてもらい、仕上げるに会場を二つのグループに分けて皆でアンサンブルを行いました。

八曲目は映画《若草の頃》より《ああなたの心に小さなメリークリスマス》を（ヒュー・マートイン作曲 中村健編曲）をヴィオラ独奏で演奏し、静けさの中の美しい旋律に、会場の集中も高まります。続いてピアノ独奏でガーシュイン作曲の組曲《三つのプレリュード》より第一番ソプラノ独唱でドニゼッティ作曲オペラ《シャモニーのリンダ》よりアリア《この心の光》を演奏。ピアノ独奏は短いながらも魅力の詰まった聴きごたえのある演奏で、アリアはソプラノ特有の高音が華やかな一曲により

ぐつと聴衆の関心を惹きつけました。



を演奏してコンサートを締めくくりました。終演後には、中止した楽器体験の代わりに「折り紙でつくる楽器工作セット」を配布して、お土産として持ち帰ってもらいました。

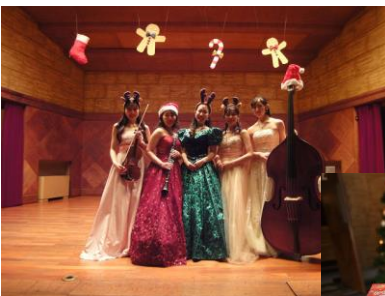
（安川陽菜・記）

ゼントとして、モーツァルト作曲《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第一楽章を演奏しました。誰もが聞いたことのあるモーツァルトの名曲をピアノ、クラリネット、ヴァイオリン、コントラバスの編成でお届けしました。



その後、歌も加わった《クリスマス・メドレー》として《きよしこの夜》《ジングル・ベル》赤鼻のトナカイ

を演奏して《きよしこの夜》《ジングル・ベル》赤鼻のトナカイ



学外アウトリーチ

西宮市立門戸幼稚園

十月八日（木）十時十五分から、

西宮市立門戸幼稚園（西宮市門戸東町三十二五、園長・阿部久美先生）にて園児対象の「門戸幼稚園コンサート」動物たちの音楽の運動会」（四十五分）を行いました。演奏はヴァイオリン・藤井輝誉、中原真依、ヴィオラ・玉置華、声楽・鳩山冨映、ピアノ・大村麻衣の五名です。



「動物たちの音楽の運動会」をテーマに、楽器によるアンサンブルの違いや弦楽器の奏法による聴こえ方の違いを感じてもらえるよう、プログラムを進めました。

始めにカール・タイケ作曲（旧友）をヴァイオリン二台、ヴィオラ、ピアノで演奏し、音楽の運動会の幕開けです。子どもたちは全身でリズムに乗ってくれました。



次にドイツ民謡（山の音楽家）で楽器のアピール大会を行いました。ヴァイオリンをリスとヒツジ、ヴィオラをクマ、歌を小

鳥、ピアノをウサギが楽器紹介しました。すべての楽器を一度に紹介するにあたり、各楽器の持ち時間を短く簡潔にすることで退屈を防ぎました。続けてポーランド民謡（クラリネット・ポルカ）をヴァイオリンとヴィオラで演奏し、二つの楽器の駆け引きを綱引きのように表現しました。視覚的にも伝わるように、メロディを弾く時は一歩前に出て、

伴奏に移ると一歩後ろに下がりました。

ここで雰囲気を変えて、声楽のソロでシューベルト作曲（笑いと涙を歌い、



小鳥がみんなの応援をしている様子を表しました。子どもたちはドイツ語にも興味を持ち、真剣な面持ちで聴いていました。小鳥さんの歌に



元気をもらったところで、ヴァイオリン三重奏でパッヘルベル作曲（カノ

ン）を演奏。メロディの追いかけて聴き所の曲に続き、オッフェンバック作曲（松尾璃奈編曲）《天国

と地獄》でリレーの様子を音楽で表現しました。

次は、秋の曲を宝に見立てて宝探しです。《秋の童謡メドレー》（鳩山冨映編曲）の中にどんな秋の曲が入っているか、子どもたちは楽しそうに探していました。中でも普段、門戸幼稚園でよく歌っている（どんぐりころころ）が大人気で大きな声で反応があり盛り上がりしました。

続いてアンダーソン作曲（フランク・プランク・プランク）をヴァイオリン二台とヴィオラで演奏。この曲は全てピッツィカートで演奏するので、こそこそと作戦会議をするので、こそこそと作戦会議をする様子の表現です。突然音量が小さくなる場所では、子どもたちが特に耳を澄まして聴いていました。

作戦会議の雰囲気から一転、次はヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノのみんなでダンス・バトルを表現しました。曲はモンティ作曲（チャルダッシュ）です。ピアノの情熱的な演奏から始まり、すべての楽器が個性

ここから「運動会の競技」に入り、まずは「リスとクマの綱引き」と称し、ポーランド民謡



〈クラリネット・ポルカ〉でヴァイオリンと

ら、〈紅葉く虫の声く小さい秋くどんぐりころころく真つ赤な秋く赤とんぼ〉を聴いてもらいました。子どもたちにとって馴染みのある曲とそうでない曲とで反応の違いがはっきりと分かりました。

アイオリン三台とピアノで、パッヘルベル作曲〈カノン〉を演奏し、メロディの重なりを「動物たちの追いかっこ」に見立てました。追いかっこは延長戦へ。ヴァイオリン二台とヴィオラ、ピアノでオッフェンバック作曲《天国と地獄》より〈序曲〉を演奏し、音の長さや強弱の変化に注目してもらえよう意識しました。

《秋の童謡メドレー》では「宝探し」と称し、いくつ曲が繋がっているかを探してもらいなが

動物たちの運動会は佳境に入り、ラストに向けた作戦会議として、アンダーソン作曲〈プリंक・プランク・プランク〉をヴァイオリン二台とヴィオラで演奏しました。この曲はすべて弦を指ではじく「ピツィカート」で演奏され、途中トライアングルの合いの手も加え、プログラム中のアクセントになったように感じます。最後の競技は「ダンス



対決」で、モンティ作曲〈チャルダッシュ〉は曲調の明暗や、テンポの緩急、演奏法など曲中でさまざまな変化があり、盛り上がりによって終えることができました。

コロナ禍によりアクティビティを行えなかったため、曲の長さやストリー、曲中の変化を熟考しました。子どもたちは音楽に合わせて手を叩いて体を揺らし、私たちの問いかけにも大きな声で答えてくれる場面もあり、楽しんでいる様子が窺えました。今回のテーマに親しみを持ってもらえたと実感しています。



(玉置華・記)

プログラム 1. 雲の族部 (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 エドワード・エルガー 2. 白狐 (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 カール・タイガ 3. 山の音楽家 (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 山崎洋輔	4. クラリネットポルカ (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 ポーランド民謡 5. カノン (ヴァイオリン・ピアノ) 作曲 ヨハン・パッヘルベル 6. 天国と地獄 (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 ジャック・オッフェンバック 7. 秋の童謡メドレー (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 堀山秀雄 (神戸大学大学院 音楽学専攻)	8. プリンク・プランク・プランク (ヴァイオリン・ヴィオラ) 作曲 ルロイ・アンダーソン 9. チャルダッシュ (ヴァイオリン・ヴィオラ・ピアノ) 作曲 ヴィクトーリオ・モンティ	あおぞら幼稚園 あき秋のコンサート 日時：2020年11月12日(木) 10:00 ~ 10:40 場所：ゆうぎじつ 演奏者： あおぞら幼稚園 あき秋のコンサート あき秋のコンサート あき秋のコンサート
---	--	---	--

雲雀丘学園小学校

十二月四日（金）雲雀丘学園

小学校（宝塚市雲雀丘四―二―

一、音楽教諭・岡村圭一郎先生、

垣内賀瑛先生）で四年生四クラ

スを対象とした実習（各クラス

四十五分）を行いました（ヴァ

イオリン・中原真依、藤井耀誉、

ヴァイオリン／ヴィオラ・玉置

華、声楽／ピアノ・鳩山冴映、

ピアノ・佐々木里緒、井本斐）。

「弦楽器の魅力／アンサンブル

を聴いてみよう」と題し、弦

楽器とアンサンブルの魅力を軸

としてプロ

グラムを構

成しました。

演奏を聴く

にあたって

「音色」「演

奏形態」「演

奏技法」の

三点に注目

と弦楽器の響きが似ていること

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

て出る仕組みと同じように弦が

振動している」と解説し、声楽

と弦楽器の響きが似ていること

を「人の声が声帯の振動によっ

が詰まったアンダーソン作曲

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

となりました。続いて弦を指で

はじく「ピツイカート」の魅力

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

レッシェを演奏しました。これ

までに紹介した演奏技法の効果

も發揮される曲として、プログ

ラム終盤に位置付けました。最後にマスカリーニ作曲のオペラ《カヴァレリア・ルスティカーナ》より《アヴェ・マリア》を弦楽器とピアノ、声楽で演奏し、

切なる祈りを込めた美しいメロディをお届けしました。

同じプログラムを一時間目から四時間目まで

で四回行い、クラスによって反応が違うことを体感し、生徒たちにより分かりやすく伝わるよう時間配分や言葉選びなどを毎回工夫しました。弦楽器の魅力とアンサンブルの楽しさが生徒たちに伝わっていただければうれしいです。

(玉置華・記)



プログラム	弦楽器の魅力 ～アンサンブルを聴いてみよう～
1. エルガー 愛の挨拶 2. ポーランド民謡 クラリネットポルカ 3. シュトラウス 万葉節 (Allerseelen) 4. バルトーク ルーマニア民族舞曲 1. 探踊り 3. 踊み踊り 6. 迷い踊り 5. アンダーソン プリンク・プランク・プランク 6. ショスタコヴィチ 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品 1. プレリュード 5. ポルカ 7. モンティ チャルダッシュ 8. マスカリーニ アヴェ・マリア (Ave Maria) ～オペラ《カヴァレリア・ルスティカーナ》より～	2020年12月4日(金) 雲雀丘学園小学校 9:00～12:25 出演者 神戸女学院大学 音楽学部4年生 ヴァイオリン 中島 直樹 ヴァイオリン 山崎 瑞希 ヴァイオリン 山崎 瑞希 ヴァイオリン 山崎 瑞希 声楽 山崎 瑞希 ピアノ 山崎 瑞希

履修生紹介

四年生(十九期生四名)からの
メッセージ

藤井 耀誉(ヴァイオリン)



私は三回生の時に先輩方の実習を見学して、来年は病院で演奏してみたいと思いました。今年は感染症の影響で病院実習が全て中止となつて残念です。それでも数少ない実習の中で学んだことも沢山あり、この状況下で学外実習をさせて頂けたのはありがたいことだと感じました。

この授業では、自分たちで一人から演奏会をつくるため、テーマに沿ったプログラム構成や、MCの話し方や印刷物の作成など初めてのことが多く、不安も

ありました。今年は履修生が四人と少なく大変なこともありましたが、助け合いながら活動する中で互いに学ぶこともあり、改善点も見つけられたので今後に生かしていきたいです。貴重な経験ができたと思います。

鳩山 冴映(作曲)



私は、主専攻である作曲のように、何かを生み出して企画すること

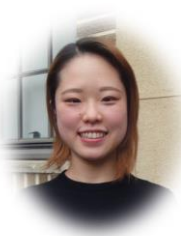
とが好きだったので、コンサート作りの経験が豊富にできて非常に興味深かったです。始めは新型コロナ・ウィルスの影響で歌えない状況やマスクをした舞台でのコミュニケーションに戸惑い、試行錯誤していました。しかし、日々考えるうちに音楽を新しい形で捉えられるようになっていきました。編曲・歌・ピアノ伴奏とできることを全力で行い、よい経験ができました。

本番では、子どもたちの実際の反

応を間近で知ることができ、正直に返ってくるので本当にやりがいを感じました。活動に制約がある中でも、コンサートの依頼をして下さった皆様に感謝いたします。

音楽の魅力を伝えたい、演奏会を作りたいという気持ちがあれば、ぜひ履修することをお勧めします。音楽を伝えるための総合的なスキルを磨くことができるからです。聞く側の立場になって研究したり、プログラムやチラシを作成したり、本番を振り返ったりすることは将来に必ず繋がると確信しています。

中原 真依 (ヴァイオリン)



私は大
学入学前
から個人
でアウト
リーチ活
動をして

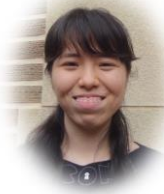
いました。保育園やデイサービスなどに行かせて頂きましたが、独学だったので迷うことや分からないことばかりで、常に手探り状態でした。そのため、「疑問

点を解消したい」「今まで以上のものを吸収して自分の力にした」という思いで履修しました。

アウトリーチを履修して、演奏会の流れだけでなく、MCや選曲など、すべてに意味があることを知りました。演奏会を作る上で聴衆の視点をどこに持つていくか、聴衆の心に残るもの（知的なおみやげ）は何かという問題意識を持ち、考えながら進められるようになりました。実習当日には各現場での空気感があり、練習よりも現場での応用が必要だと実感しました。

この二年間は全部が新しい発見で一生忘れることのできない貴重な経験になりました。ここまで支えてくださった津上先生、スタッフの皆様、履修生のメンバーに感謝しています。

玉置 華 (ヴァイオリン)



今年は
コロナの
影響で、病
院での実

習がなくなり、幼稚園二回と小学校一回だけ、子どもたちの言動も制限のある中での実習でした。その上、今年の履修生は四人だけでピアノ科の学生がおらず、学内外の活動も皆とても忙しい中での実習だったので大変なことも多かったです。今まで人前で演奏する時は演奏だけに集中できましたが、アウトリーチではプログラム全体の流れを演奏・MC・曲順など様々な視点で工夫しなければなりません。本番のどのくらい前からどのような準備をすればよいのか、そもそもその曲について自分の知識を深める必要もあり、細々とすることが意外と多く頭がこんがらがることが多かったですが、四人で助け合いながら頑張りました。自分たちで五十分ほどのプログラムのすべてを組むのはアウトリーチでしかできない貴重な体験で、苦労して作ったプログラムを子どもたちが素直に楽しんでいる様子を見るとてもやりがいを感じました。

「音楽によるアウトリーチ（講義）」

履修生（三回生四名）

ピアノ

笠井朱音、黒田有紀、

中村未奈

オーボエ

森山亜友奈（総合文化学科）



アウトリーチ要員からの メッセージ

金丸 史奈さん（十五期生）



今年度よりアウトリーチ要員として勤務させていただいております。

今年は新型コロナ・ウィルスという未曾有の災禍により、前期は大学も登校禁止となり、授業はすべてオンライン化されました。アウトリーチ実習も例外ではなく、「実習」はおろか、同じ空間を「共有」することさえできない、非常に困難な学期となりました。何もかもが初めてで手探りの状態でしたが、学生たちは「できない」ではなく「どうやったらできるか」に発想を転換して、コロナ禍の中で世界の音楽家が行っている演奏活動を考察し、新たな演奏会の形を探りました。リモートワークによる演奏にも挑戦し、音楽の新

しい可能性を追求しました。

後期になってようやく「弦楽器の魅力」をテーマにしたプログラムで幼稚園・小学校へ計三回の実習に行くことができました。前期に予定されていた行事や演奏会がすべて後期に後倒しされ、学生たちはそれぞれ多くの本番を持っていたにもかかわらず、短期間で集中して準備を進め、立派にやり遂げました。

この困難の多かった一年の中で、何事にも熱心に取り組んでやり抜いたという経験は、今後彼女たちの音楽人生に必ず活かされると思います。コロナ・ウィルスにまだまだ左右される世の中ですが、今回学んだ、「できない」ではなく「どうやったらできるか」という発想で、前向きに頑張っていってくれるものと信じています。

センター・スタッフ

「コロナ禍の一年を振り返る」

アウトリーチ・センターでは年三回の「子どものためのコンサート・

シリーズ」の運営や、学外アウトリーチ実習のコーディネート、演奏派遣の受付窓口や広報活動（HP・アウトリーチ通信）を行なっています。

今年度は新型コロナ・ウィルスの影響で様々な変更を迫られました。「子どものためのコンサート」では定員数を大幅に減らし（従来の五分の一）、終演後の楽器体験も中止せざるを得ませんでした（来場者アンケートでも、楽器体験ができないのが残念という声が多数寄せられました。せめてもの代替として「楽器工作キット」を準備し、子どもたちに持ち帰ってもらいました。コロナ禍でも毎回定員数を大きく上回るお申し込みがあり、「生の音楽を聴きたい」という要望が強いことを実感しました。お客様に安心して楽しんで頂ける環境を整えるため、換気や除菌はもちろん、密にならない受付導線や席席配置、分散入場・退場などを考えて実施しました。

学生の「学外アウトリーチ実習」にも大きな影響がありました。毎年依頼があった病院からキャンセルの連絡が相次ぎ、今年度は幼稚園二園と小学校一校のみとなりました。訪問先によって許される行動

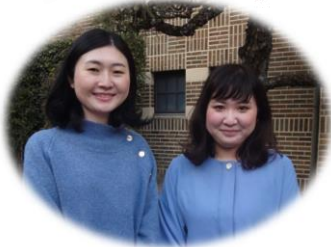
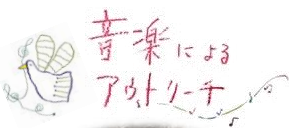
範囲があり、学生たちはいろんな思いを抱いて実習に取り組み、貴重な経験をしてきました。実習前には各自検温をして、実習中もマスク着用で子どもたちと社会的距離を保ちながら実施しました。この状況下で実習の受け入れをしてくださった関係者の皆様に感謝の意を表します。

これからもアウトリーチ・センター長である津上智実先生の教誨に基づき、音楽を通して私たちにできることは何かを考え、たくさんの人に音楽の魅力を届けていきたいと思っています。

（丹野桃子、森美有紀・記）

♪森美有紀（二〇一四年より勤務
現在六年目）

♪丹野桃子（二〇一八年より勤務
アウトリーチ・十四期生）



2020 年度 実習歴

- 10月 8日 (木) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
10月17日 (土) 子どものためのスペシャル・コンサート(シリーズ第 56 回)
11月12日 (木) 西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園アウトリーチ
12月 4日 (金) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ
12月12日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 57 回)
3月 6日 (土) 子どものためのスプリング・コンサート(シリーズ第 58 回)

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

- ♪ **幼稚園・小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！
- ♪ **病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

世界中の人が前例のない苦境を経験した 2020 年。様々な制限がある中で思うように実習やコンサートができない一年となりました。履修生たちには卒業後もコロナに負けず、学んだことを糧にこれからも素敵な音楽を届けてくれることを願っています。(森)

今まで当たり前できていたことが、できなくなる場面に直面することが多い一年でした。センターでの業務も手探り状態で行う中で、新たな気付きも多くありました。コロナ禍だからできないことも多くありますが、コロナ禍だから気付けたことも大切にしたいと思います。(丹野)

音楽の場を絶やさずに、学生が学ぶ機会を確保することに心を砕いた一年でした。(津上)